

令和元年8月27日

第69次 印旛地区教育研究集会

国語科「読むこと」分散会 提案資料
資料編

研究主題

児童の読みを深め、学びを実感する国語科授業



印西市立小林小学校 国語研究部

～目 次～

- 1 実践例⑤ 第2学年「お手紙」
- 2 実践例⑥ 第3学年「めだか」
- 3 各学年のフレームリーディングの取り組み

実践例⑤

単元名 お話の世界に入って音読げきをしよう
 学習材『お手がみ』

仮説1 学習過程の工夫に対する手立て

手立て(3) - ① 学習をふり返ることのできる掲示物の工夫

児童が、読み取ったことを感情曲線に表すことで音読に生かすことができた。登場人物の会話を色分けしたことは、支援が必要な児童にも捉えやすかった。

手立て(4) 物語の始めと終わりの場面对比させる

お手がみ
 アールドリロヘル
 ものがたりのはじめとよわりの
 じんなことがわつたのだらう。

把握読みの段階で物語の始めと終わりで何が変わったのかを挿絵を基に捉えさせた。低学年児童にとって挿絵の活用はとて有効である。これまでの物語の学び方も生かされ、すぐに根拠となる文章を見付けようとしていた。キーワードとなる不幸せ・幸せ・悲しい・嬉しいという言葉に着目できていた。

主人公のがまくんが不幸せ⇒⇒幸せになる物語

初めは不幸せだったがまくんが幸せな気持ちになったという物語全体の変容を捉えることができた。ここで、中心人物と対人物の用語も押さえた。

手立て(2) - ① 共通の学習過程 文学的文章を学習する際の基本の三つの問い

はじめは ふしあわせだった がまくん が (悲しかった がまくんが) かわるくんから手紙をもらうこと によって
 さいごに しあわせになる お話 (えがおになる・うれしくなる) お話

手立て(1) 音読劇をするという言語活動に向けての毎時間ごとの音読物語の初めの場面


お母さんがフーシート ②
1年1番

かまぐんが、かたはらにすわ
して、こころが、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ

かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ

かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ

かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ



かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ

かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ

かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ

かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ



文章を根拠に読み取ったことや想像したことが現れるように会話文の音読の仕方を考えて記入。書き込みが難しい児童には、音読をさせた後にどんな気持ちで読んだのかを確認したあとで記述させた。

お母さんがフーシート ②
1年1番

かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ

かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ

かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ

かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ


かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ

かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ

かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ

かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ

かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ



かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ

かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ

かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ

かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ
かたはらにすわ、かたはらにすわ

仮説2 発問の工夫

手立て(1) 詳細読みの段階で三つの発問をした。その際必ず根拠となる文章を確認した。

①なぜ、かえる君は手紙をかたつむり君に頼んだのだろう。

- かえる君が渡したら、かえる君が書いたと分かってしまうから、だれからきたのかわからないようにするため。
- がまくんは、1度も手紙をもらったことが無いから、ポストから手紙を出す時わくわくして欲しいから。
- かたつむり君はゆっくりだから、手紙を待つ喜びを味わわせたい。
- 2人はいつも一緒にいるので、かえる君は手紙をポストに入れられないから。
(並行読書で読ませたシリーズ本から、2人がいつも一緒にいることに気付いた)
- がまくんが渡すより他の人から届いた方がサプライズになるから。

②なぜ、かえる君は自分が手紙を出したことをすぐに言わなかったのだろう。

- がまくんは、いらいらしてたけど、もう少し待てると思ったから。
- もうすぐ手紙が届くことはかえる君は分かっているから。
- 手紙が届いたときの喜びが大きいから。
- がまくんは、ベッドから出てきて窓のところに来たから、手紙をもらいたい気持ちが強い。だから、かたつむりくんからもらった方が嬉しいから。
- かえるくんはがまくんといつも一緒にいるので、がまくんのことをよく分かっているから、まだ待てると思った。

③なぜ、その後かえるくんはすぐに自分が出したことを言ったのだろう。

- もうこれ以上待てないと思ったから。
- その前は、いらいらしていたけど、もう手紙が来ることをあきらめてしまっているから、手紙が届くことを伝えた方がかえる君が喜ぶと思ったから。
- がまくんは、すごく落ち込んで元気が無いから、これ以上待たせるのはかわいそうだと思ったから。
- かえる君は親友だから、がまくんを悲しませたくないから。

発問に対して、児童は、「だって・・・」と自分の考えを伝えようとする姿が見られた。そこで「どの文章や言葉からそう思ったのか、だっての次に教えてね。」と投げかけることで、再度読み返し、根拠となる文章や言葉を探していた。文章や、言葉にこだわって読みを深める進める様子が見られた。

手立て(2) グループ対話・全体対話を通しての読みの深まり




〈児童の変容〉


学習の最後に、登場人物に手紙を書く活動を取り入れた。

かえるくんへ
かえるくんは、やさしいんだね。かえるくんは、
心の中があたりがくことごとしいんだよ。
だてがんなんは、ごめんなさい。ごめんなさい。
がよしんして、ごめんなさい。ごめんなさい。
もん、かえるくんは、しんゆうのがよしん
がらえら、たぶくをたいせつにし、しん
ても、がよしんくんは、うれしう
ら、おもしろう。おもしろう。おもしろう。
ことごとしいことごとしい。かえるくんの
いんによ。わたしは、がよしんくんかえるくん
は、としごめんなさい。おもしろい
もよ。

あかきより



かえるくんへ
かえるくん、かえるくんは、
あつやくなさいね。わたしは
ものごとツガ、ごめんなさい。なの
で、かえるくんかましんのシリ
ズは、女王さまだよ。あつやくい
本は、ツガリだよ。二人がいつも
いしよにいる。ツガリだよ。あつやくい
が、よくあつやく、かましんが、
しあつやくなことごとくも、あつやくい
が、よくあつやくのことごとくも、あつやくい
たいせつにしているんだね。



自分から登場人物あてに手紙を書いたが、ほとんどの児童がかえるくんの優しさに対して触れる内容であった。並行読書で読んだシリーズ本の中から発見したことや気付いたことに触れ、二人の仲の良さについて書く児童も数名見られた。挿絵を見るとかえるくんの上着にはたくさんのボタンがついているがその上着は、がま君がかえる君にあげたものであることをグループ対話の中で情報として得ていた。物語を読むことの楽しさにつなげていることが手紙の内容からわかる。

実践例⑥

- 1 単元名 大事なことをまとめよう
学習材『めだか』

2 単元について

(1) 単元観

本単元は国語科学習指導要領の以下の目標と内容を受けて設定した。

目標 思考力、判断力、表現力等

(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。

内容 C 読むこと

ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。

ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること。

オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。

これまでに児童は、文章中の重要な語や文を考えて選び出すこと、文章を読んで感じたことや分かったことを共有することを学習してきた。これを受けて、中学年では、段落の相互関係に着目しながら、書き手の考えがどのような理由で説明されているかを正確に捉えていく。

学習材である『めだか』は、三年生となり初めて読む説明文の単元である。めだかが敵から身を守る方法や、環境に適応して生きる体の特長などを段落の要点に気をつけながらとらえる説明文である。最初に『めだかの学校』という、児童にも馴染みのある歌から、「本当にお遊戯しているのだろうか。」と疑問を持たせ、それらを解明していくようにする。

本単元では、段落の要点に気をつけながら読み、めだかの生態について新たな発見をし、それらをリーフレットにまとめ、来年の3年生である2年生に見せる活動を言語活動として設定する。リーフレットにまとめることで、教材文から、段落の要点に気をつけて読み、わかったことや大事なことをまとめることができる考える。また、「リーフレット」というゴールを設定し意識させることで、意欲的に学習に取り組めると考える。説明文の全体の構成を正しく捉えることは、第4学年の「興味を持ったことを要約して紹介する」ことに発展していく学習である。本単元を通して、段落ごとの様子だけではなく、文全体を見直し、説明文を通して筆者が伝えたいことや、説明文を構造的に読み取る面白さや深く読み取ることの楽しさを実感させたい。また、児童のめだかに関する予備知識をもとに文章を読み、めだかに対する既知の知識が更新されていくことのおもしろさを味わわせたい。

- (2) 児童の実態 (男子15名 女子13名 合計28名) 省略

(3) 単元でつきたい力

- ・段落相互の関係に着目しながら、めだかが敵から身を守る方法や自然の厳しさに耐えるための体の特長を読み取る力。
- ・段落の要点に気をつけて読み、わかったことや大事なことをまとめる力。

(4) 仮説との関連と指導観

仮説1 身につけたい力を明確にし、児童が見通しを持てる学習過程を工夫すれば、主体的に読み、学びを実感することができるだろう。

本単元では「リーフレット作り」を通して、説明文の構成や、段落ごとの要点に気をつけながら読むことをゴールとして活動を進めていく。読み取ることへの必要感が感じられるように学習を進めていく。

そのために、第一次の把握読みでは、めだかの学校のCDを流し、学習への意欲を持たせる。また、教師が書いた「リーフレット」を見せ、リーフレットを書くことに興味・関心を持たせる。そして、単元や本文を読み、感想を書かせ、学習の見通しを持たせる。

第二次の詳細読みでは、説明文の大枠を読み取り、必要な部分を細かく読み取っていく。意味段落である「めだかが敵から身を守るため方法」や、「厳しい自然に適応している体の特長」について、段落の中から中心文を読み取っていく。その際に、筆者の書き方にも着目し、段落の最初に書いてある頭括型の文なのか、尾括型の文なのかも合わせて読み取らせていく。そうして、最後のまとめの段落で、それら二つの特長が生かされていることを押さえ、最初に出てくる『めだかの学校』の歌も、本文とつながっていること、筆者の考えが表されていることに気づかせたい。そのために、教材文は事前に打ち出したワークシートで用意し、児童が自ら小見出しを付けたり、書き込めるようにしていきたい。また、教室には説明的文章を読み取る時に必要な学習用語を掲示し、本文の構造にも目を向けて読めるようにしていきたい。合わせて、めだかに関する本やいろいろな暮らし方をする魚の本を置き、並行読書をしていくことで、より深く学習に取り組めることを期待したい。

第三次の深め読みでは、第二次で学習したことを基に、学習してわかったことを文章にまとめる活動を行う。学習前に知っていたことと、学習して新たに知ったことを整理して筋道立てて書かせていきたい。そのために、第二次までのリーフレットづくりを丁寧に行い、学習がいつでも振り返られるようにしていきたい。

仮説 2 児童が読んで考えてみたくなるような発問を工夫すれば、言葉や文章にこだわって読みを深め、学びを実感することができるだろう。

第一次では、「めだかは、めだかの体はという主語は全部でいくつあるか。」という主語に着目させる発問によって、説明文に何が書かれているかおおよその内容を把握させる。また、「この話を始め・中・終わりの3つに分けるとどのようになるか。」という発問から文章の大枠をとらえさせていく。その際、どの言葉や文章からそう思うのか理由をつけさせていく。そして、形式段落ごとに何が書かれているのか、小見出しをつけながら説明文の構造を読み取っていくことで、言葉や文章にこだわって読み深めることができると思う。

第二次では、めだかの身の守り方、厳しい自然環境でも耐えられる体の仕組みについてナンバリングや中心文に気をつけて読み取り、要点を確実に抑えていく。その際、「～身を守ります。」「～たえられます。」などのくり返し使われている文末表現に目を向けさせて、共通する点を見つけさせることで、読み手にわかりやすく書いている筆者の工夫を読み取っていく。そして、最後に「筆者が『めだかの学校』の歌を通して伝えたかったことは何だろうか。」という発問から、改めて全体を見直し、歌詞に対応する本文のつながりを見つけ、筆者の意図、そして説明文全体のフレームを見直させていきたい。

3 単元目標

○めだかの敵から身を守る方法や、自然の厳しさに耐える体の特長を進んで説明しようとする。

(関心・意欲・態度)

○段落の中心となる語や文を見付け、要点を押さえながら読むことができる。

(読むこと)

○文章の大事なところやわかったことから、感想や考えをもつことができる。

(読むこと)

4 指導計画(9時間扱い)

学習過程	時配	学習内容と学習活動	評価規準(評価の観点・評価方法)
第一次 見出す	1	<ul style="list-style-type: none"> ○単元全体の見通しを持ち、学習計画を立てる。 ・めだかの学校のCDを聞く。 ・教師が書いた「リーフレット」を見せ、学習に対する関心・意欲を高める。 ・めだかについて知っていること、文章を読み初めて知ったこと、感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本文を読み、感想などをノートにまとめ、これからの学習の見通しを持とうとしている。(読)【発言・ノート】 ○リーフレットについて興味を持ち、学習取り組もうとしている。(関・意・態)【発言・行動観察】

	1	<p>○概要をつかみ説明文の家をつくる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>①形式段落に分ける。 ②意味段落に分ける。 ③「めだかは」「めだかの体は」の数を数える。 ④段落ごとに何が書かれているか。</p> </div>	<p>○進んで本文を読み、段落の概要を読み取っている。(読)【発言・ワークシート】</p> <p>○各段落で説明されている内容を理解している。(読)【発言・ワークシート】</p>
第二次 調べる・ 深める	1	<p>○めだかの身の守り方について読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めだかの敵を読み取る。 ・めだかの身の守り方はいくつあるか、「第一に」「第二に」…などナンバリングを意識して読み取る。 ・主語を考える。 ・中心文から要点をおさえる。 	<p>○筆者の問いとの関係に気をつけながら、めだかがどのように敵から身を守っているか読み取っている。(読)【発言・ワークシート】</p> <p>○中心文から要点を正確に読み取っている。(読)【発言・ワークシート】</p>
	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>めだかの身の守り方の中から一番すごい守り方を見つけよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・4つの身の守り方の中で自分が一番すごいと思ったものリーフレットにまとめる。 ・根拠を基に友達に伝え合う。 	<p>○めだかの敵から身の守り方から根拠を自分の考えを表している。(読)【発言・リーフレット】</p>
	1	<p>○体の仕組みについて考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>めだかは自然の厳しさに耐えるためにどのような特長をもっているだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自然の厳しさに耐えられる体の特長の数を読み取る。 ・前時の中心文との違いを見つける。 ・わかったことや自然の厳しさに耐えるめだかに対する自分の考えをリーフレットにまとめる。 	<p>○めだかの体の仕組みについて読み取っている。(読)【発言・ワークシート】</p> <p>○中心文の書き方の特徴に気付いている。(読)【発言・リーフレット】</p>
	1	<p>○筆者の伝えたいことを読み取る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>一番大事な段落はどこだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・メダカの身の守り方・自然の厳しさに耐える体の仕組みについて振り返る。 ・筆者が一番伝えたい大事な段落を見つける。 ・なぜ大事なのか根拠を持って紹介する。 	<p>○筆者が伝えたかったことは何か、根拠を下に段落の相互関係を読み取っている。(読)【発言・リーフレット】</p> <p>○要点をまとめて読み取っている。(読)【発言・リーフレット】</p>
1 本時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>筆者が『めだかの学校』の歌を通して、伝えたかったことは何だろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・『めだかの学校』の歌を歌う。 ・『めだかの学校』の歌を本文に入れた意図を考える。 ・歌詞がつながっている文を見つける。 ・歌詞とのつながりから筆者の伝えたかったことを読み取る。 	<p>○めだかの学校』の歌と本文の関係から、筆者の伝えたかったことを読み取っている。(読)【発言・ワークシート】</p> <p>○言葉や文章を基に、『めだかの学校』の歌と本文のつながりを進んで考え表現している。(関・意・態)【発言・リーフレット】</p>	

第三次 まとめ あげる	1	○「めだか」を読んでわかったことや思ったこと、考えたことをまとめる。 ・今までリーフレットにまとめてきたことを振り返り、めだかについて知っていたこと、学習してわかったこと、考えたことなどをまとめる。	○進んでわかったことや大事なことを整理して文章に書き表している (関心・意欲・態度) 【発言・リーフレット】
	1	○リーフレットにまとめたことを友達と読み合う。 ・友達と読み合って、友達の表現で良かったところをみんなに紹介する。	○文章の大事なところや文章からわかったところを正しくかけているか。 (読)【発言・リーフレット】

5 本時の指導 (7/9)

(1) 目標

○言葉や文章を基に、『めだかの学校』の歌と本文のつながりを進んで考え表現しようとする。

(関心・意欲・態度)

○『めだかの学校』の歌と本文の関係を読み取ることを通して、説明文のつながりに気づくことができる。

(読むこと)

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○ ★評価【評価方法】	資料
5	1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を確認する。 ・一番大事な段落は⑫段落である。 ・⑫段落のめだかの身の守り方は⑤～⑧とつながっている。 ・⑫段落の体の特長は⑨～⑪とつながっている。 2 本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">筆者が『めだかの学校』の歌を通して、つたえたかったことは何だろうか。</div>	○めだかの身の守り方、体の特長について振り返る。 ○中心文や要点をおさえて振り返らせる。	掲示物
4	3 『めだかの学校』を歌い、歌詞を確認する。	○『めだかの学校』を全員で歌う。 ○歌詞の意味を確認する。	掲示物
10	4 『めだかの学校』の歌を本文とのつながりを読み取る。 ・本文に歌を入れたのは理由があると思う。 ○歌詞に出てくる言葉がどこの段落とつながっているか考える。	○『めだかの学校』の歌がなくても良いのではないかと児童に投げかけ、揺さぶりをかける。 ○支援が必要な児童には、歌に出てくる言葉を本文から探させ読み取らせる。 ○最初に全員で1つ見付け歌詞の横に形式段落を書き、その後一人読みをする。 ★言葉や文章を基に、『めだかの学校』の歌と本文のつながりを進んで考え表現している。(関)【発言・ワークシート】	ワークシート

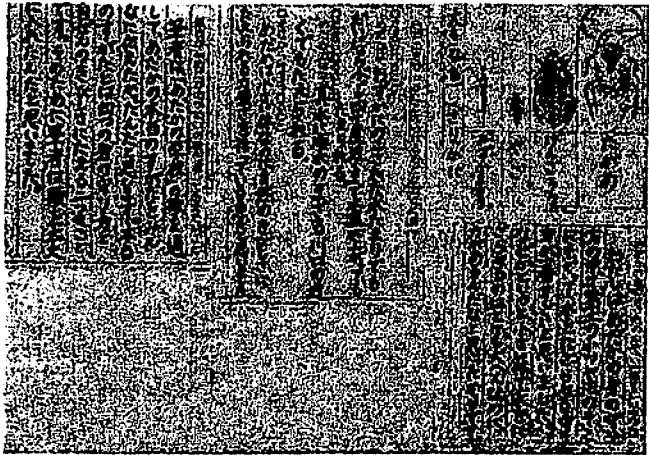
	<p>(1) めだかの学校は 川の中 →②段落 春になると～あらわします。</p> <p>(2) そっとのぞいて みてごらん →⑥段落 すいっ、～上手です。</p> <p>(3) みんなで →⑧段落 何十匹～身を守る。</p> <p>(4) お遊戯 →③段落 のんびり楽しそうに泳いでいる →⑫段落 しかし、めだかはいろいろな～ 生きているのです。</p>	<p>【フレームリーディング】 筆者が『めだかの学校』の歌から伝えた かったことを、歌詞と本文のつながりか らとらえる。 (仮説2)</p>	ワークシート
18	<p>5 『めだかの学校』の歌詞と本文のつながり を読み取り、筆者の伝えたかったことにつ いて考える。</p> <p>○ワークシートに筆者の伝えたかったことにつ いて自分の考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者はめだかの本当の姿を知ってほしかつ た。 ・めだかはのんびりゆったりしているイメージ であるが、本当はとても大変な生き物である と伝えたかった。 ・本当はお遊戯していないことを伝えたかつ た。 <p>6 まとめをする。</p>	<p>○ワークシートに根拠となった言葉や文章 を加えて書かせる。</p> <p>○3～4人組でなぜその文章から考えたの か、根拠を持って説明できるようにさせ る。</p> <p>○全体で共有する。</p> <p>★『めだかの学校』の歌と本文の関係か ら、筆者の伝えたかったことを読み取つ ている。</p> <p>(読)【発言・ワークシート】 B: 筆者が伝えたかったことを、自分の言 葉で表している。</p>	ワークシート
3	<p>筆者は『めだかの学校』の歌を通して、めだかの本当の姿を伝えたかった。</p>		
5	<p>7 本時の振り返りをする。</p>	<p>○今日の学習でわかったことや、友達との 交流を通して気付いたことを書かせる。</p>	

(3) 板書計画

<p>③ めだかの本当の姿を伝えたかった。</p>	<p>筆者が『めだかの歌』を通して伝えたかったこと ・筆者はめだかの本当の姿を知ってほしかった。 ・めだかはのんびりゆったりしているイメージであ るが、本当はとても大変な生き物であると伝えた かった。 ・本当はお遊戯していないことを伝えたかった。</p>	<p>本文を書いたプリント</p>	<p>『めだかの学校』の歌詞</p>	<p>④ めだか 筆者が『めだかの学校』の歌を通して、 つたえたかったことは何だろうか。</p> <p>杉浦 宏</p>
-------------------------------	---	-------------------	--------------------	--

仮説 1 学習過程の工夫に対する手立て

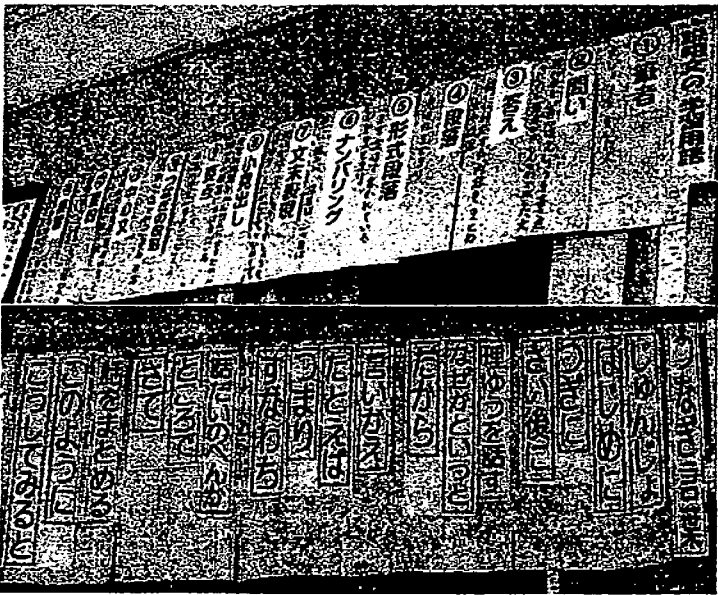
手立て 見直しをもてる学習過程の工夫



番号	項目
9	
8	
7	
6	
5	
4	
3	
2	
1	

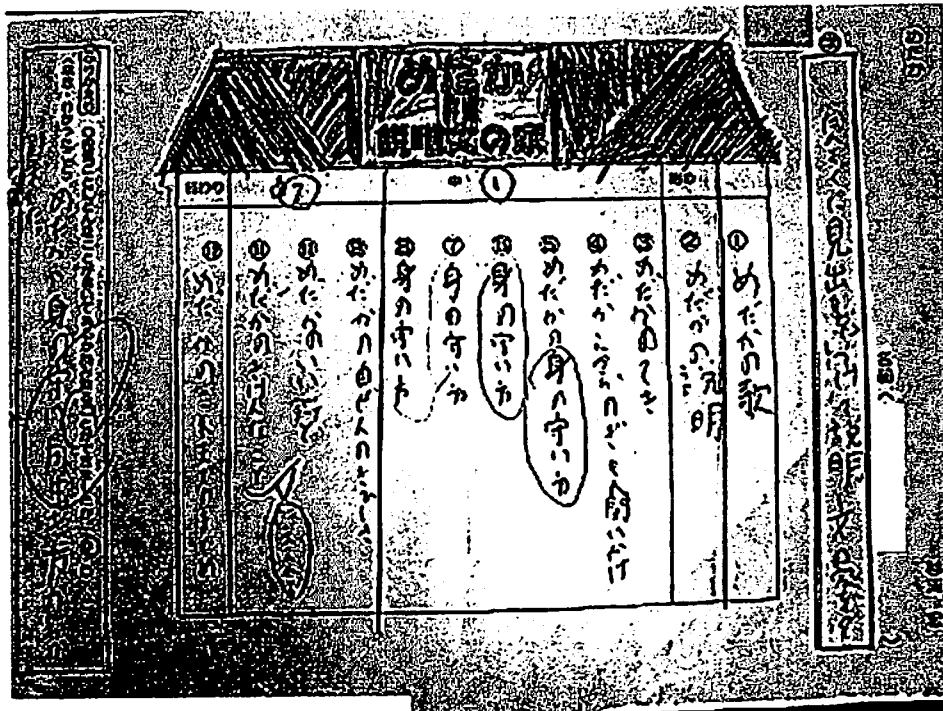
手立て めあてと学習計画の明確化
 学習の始めには教師が作成したパンフレットのモデルを提示した。学習計画を作成して掲示し、見直しをもって、学習に参加できるようにした。

教師が作成したパンフレットのモデルをみせると、「つくってみたい。」「楽しそう。」「2年生に見せるなら、わかりやすく作らなきゃ。」「正しく伝えられるように、しっかり読まなきゃ。」といった、意欲が高まった様子が見られた。



手立て②-2
 説明文を読むときに必要な学習用語を掲示した。この学習では、「②問い④段落⑤形式段落⑥ナンバリン⑧小見出し⑨要点⑩中心文」について、掲示物を使って、確認した。

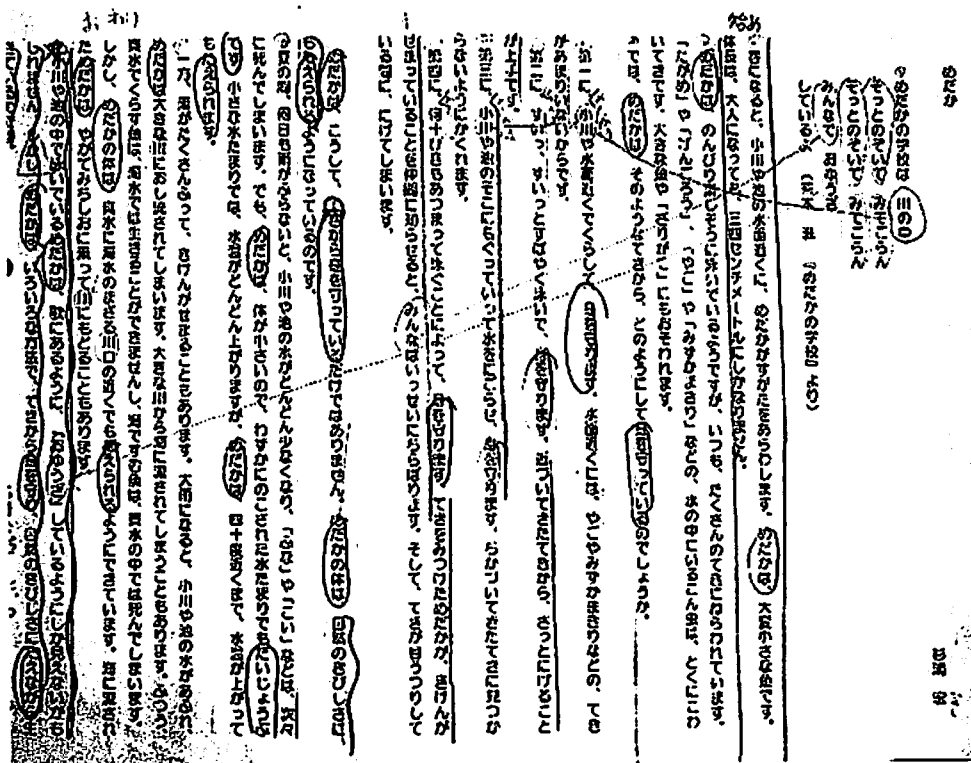
これまでに学習してきた用語については、カードを見て思い出している児童もいた。新しい用語については、教科書と併せて確認し、全員で共通理解をして学習を進めることができた。



手立て③-2

第2時で、文章の大体の内容や、文章の構造を捉えさせるため、説明文の家づくりを行った。形式段落の中心となる文や言葉を書き、意味段落で部屋をわけた。

各段落の要点をまとめたり、部屋を分けたりするなかで、説明文の大まかな内容や、構造を捉えることができた。



手立て③-2

詳細読みの時に、全文を印刷したワークシートを使用した。

児童は、何度も出てくる文末表現を見つけ、筆者が読み手にわかりやすく文章を書いていることに気付くことができた。

仮説2 発問の工夫

(1) 把握読み

『めだかは』『めだかの体は』という言葉の数えさせた。全体で確認すると、④～⑦段落には一つも出てきていないことがわかった。④～⑦段落もめだかについての説明であることを確認し、どこに主語が入るのかを確かめることで、内容の大体を捉えることができた。

(2) 詳細読み

第2次で、自然の厳しさに耐えられるメダカの体の特徴をよみとった後、筆者が本文の始めに入れた歌『めだかの学校』を通して、何を伝えたかったのか、話し合った。

④

筆者が歌を添えて伝えたかった理由
 筆者は『めだかの学校』の歌を通して、子どもたちに「めだか」の体の特徴を伝えるだけでなく、自然の厳しさを伝えることもあった。自然の厳しさを伝えることで、子どもたちが「めだか」の体の特徴をよりよく理解できるようにしたい。

⑤

筆者が歌を添えて伝えたかった理由
 筆者は『めだかの学校』の歌を通して、子どもたちに「めだか」の体の特徴を伝えるだけでなく、自然の厳しさを伝えることもあった。自然の厳しさを伝えることで、子どもたちが「めだか」の体の特徴をよりよく理解できるようにしたい。

⑥

筆者が歌を添えて伝えたかった理由
 筆者は『めだかの学校』の歌を通して、子どもたちに「めだか」の体の特徴を伝えるだけでなく、自然の厳しさを伝えることもあった。自然の厳しさを伝えることで、子どもたちが「めだか」の体の特徴をよりよく理解できるようにしたい。

⑦

筆者が歌を添えて伝えたかった理由
 筆者は『めだかの学校』の歌を通して、子どもたちに「めだか」の体の特徴を伝えるだけでなく、自然の厳しさを伝えることもあった。自然の厳しさを伝えることで、子どもたちが「めだか」の体の特徴をよりよく理解できるようにしたい。

⑧

筆者が歌を添えて伝えたかった理由
 筆者は『めだかの学校』の歌を通して、子どもたちに「めだか」の体の特徴を伝えるだけでなく、自然の厳しさを伝えることもあった。自然の厳しさを伝えることで、子どもたちが「めだか」の体の特徴をよりよく理解できるようにしたい。

⑨

筆者が歌を添えて伝えたかった理由
 筆者は『めだかの学校』の歌を通して、子どもたちに「めだか」の体の特徴を伝えるだけでなく、自然の厳しさを伝えることもあった。自然の厳しさを伝えることで、子どもたちが「めだか」の体の特徴をよりよく理解できるようにしたい。

児童は、全文シートを使い、歌『めだかの学校』と本文との関わりを、言葉に注目して考えることができた。

はじめは、「歌なんていらなのではないか。」と考えていた児童も、「歌はめだかの大事なことを言っていた。」と考えるようになった。

(3) 深め読み

『めだか』の学習を通して学んだこと、考えたこと」の欄をリーフレットにつくり、記入させた。

読みの深まりについての検証

「めだか」の学習を通して学んだこと・考えたこと
 めだかを読んだことでわかったことや感想もかこう。
 ○あたまたかい
 ○からだがしんじゅがいる
 わかたこと
 めだかはおたかさんのときにねらわれている。
 (感想)
 たかさんのときにねらわれているからかわいそう

学習前

「めだか」の学習を通して学んだこと・考えたこと
 めだかの身のまわり方が多くてすごいなと思いきし
 た。たかかと言おうときんぎよとかはやらないけど
 めだかは遊んでいるからすごいなと思えました。めだか
 は小さいからあずかしのこさねた、水たまり
 でもた入りれるとはさしいし、わりと細いとい
 じ、はいたみりた、まりよりもちいさいところ
 さいはるじりりませんでした。

学習後

めだかがたかさんの敵に狙われていることだけでなく、めだかと他の生き物を比べて考えていることがわかる。

「めだか」を読んだことや感想も書いて。
 わかたこと
 ○大人になっても二四センチまでしかあがらない。
 ○のんびり泳ぐしえうに泳いでいるよつに見えるけれど
 もたかさんのときにねらわれている。たかめは「さうさ
 つかまきり」のなかの中にある。こん中はとくじ
 わい
 (感想)
 めだかもとてもたいへんたかさんのたはじのせいりまじ
 りやうはいつまたたかさんたかさんにあらわれている。

「めだか」の学習を通して学んだこと・考えたこと
 わたしは、めだかのことが小ぶりにてきなりの思っだと思っ
 した。めだかを読んだ。めだかはおたかかたかかわりには
 方法で身をすましていることがすごいと思っました。めだか
 は、自分の水面で
 くぐくぐ、そのほか、すいすい、とまばせ泳ぐ、水をにこせ
 る、何かがき
 もあま、泳ぐ、そのほか、めだかかたかかたかかたかかたか
 よわかりました。

めだかがたかさんの敵に狙われていることだけでなく、めだかと他の生き物を比べて考えていることがわかる。

各学年のフレームリーディングの取り組み

【物語文】

1学年

1学期	単元名 『大きなかぶ』
① 着語読み・登場人物の確認 ② あらすじを確認し、一番変容したことをとらえる。→ぬけなかったかぶがぬけた。 ③ どうしてかぶは抜けたのかについて考える。 ・なぜ力を合わせたといえるのか。 ④ 「うんとこしょ、どっこいしょ。」という言葉が何回出てきたのか数え、その音読の仕方について考える。 ⑤ どんな順番で6人は出てきたのかを確認し、「この順番に意味があるのか」について考える。 ⑥ 役割を決めて音読する。	
2学期	単元名 『けんかした山』
① 着語読み・登場人物の確認 ② 「山」という言葉が何回出てきたのか数え、それぞれどんなことをしていたのかを確認し、あらすじをとらえる。 あらすじ：けんかばかりしていた2つの山が、お日様が降らせた雨によって、ふき出した火が消え、なかよくなった。 ③ 挿絵をもとに、始めと終わりで変容したことをとらえる。 ④ 「2つの山はなぜけんかをやめたのか」について考える。 ⑤ 役割を決めて音読する。	
3学期	単元名 『お手紙』
① 着語読み・登場人物の確認 ② 玄関の前に座る2人の挿絵を見て違うところを話し合う。 始め：不幸せ・悲しい気持ち→終わり：幸せ・うれしい ③ なぜがまくんだけでなく、かえるくんまで悲しい気持ちだったのか考える。 ④ なぜかえるくんは自分で手紙を届けずにかたつむりくんにわたしたのかについて考える。 ⑤ なぜかえるくんは、がまくんに手紙を書いたことをすぐに伝えなかったのかについて考える。	

2学年

1学期	きつねのおきやくさま
① どこで場面が変わるのかを考える。 ② 音読記号を使って強さを考えて音読する。 ③ 読むための大事なところをまとめる。 ④ くりかえされているところを表にまとめる。 ⑤ やさしいと言われた時のきつねの気持ちを想像する。	
2学期	かさこじぞう
① 登場人物は何人が確認する。(会話文のある人物) ② 時を表す言葉をもとに、場面はいくつか確認する。 ③ なぜよいお正月を迎えられたのか考えることで、因果関係を捉えさせる。 ④ 人物像を捉える。(根拠をもたせる。 ⑤ なぜ地蔵様はお金を持って来なかったのか、話し合う。	
2学期	わにのおじいさんのたからもの
① 続き話とはどういうものかを知る。 ② どうしてわにのおじいさんは、宝物の場所を教えたのか考える。 ③ どうしておにの子はタヤケが宝物だと思ったのか考える。 ④ 自分がわにのおじいさんだったら、宝物のことを教えるか、教えないか決め、話し合う。 ⑤ 読み取ったことを使って続き話のメモを書く。 ⑥ メモを使って続き話を書き、友達と読み合う。振り返りを行う。	

3学期 アレクサンダとぜんまいねずみ
<ul style="list-style-type: none"> ① あらすじをまとめて身近な人に紹介するために話を詳しく読む。 ② 場面の数と登場人物を確かめ、話の全体を捉える。 ③ 場面ごとにアレクサンダのしたことや話したことなどを確かめ、想像を広げながら、アレクサンダの行動や気持ちの移り変わりについて話し合う。 ④ この話を誰に紹介するのかを決め、自分が伝えたいところを中心にあらすじをまとめて書き、それをもとに紹介し合う。

3学年

1学期 単元名 『白い花びら』
<ul style="list-style-type: none"> ① 単元の見通しを持ち、感想を書く。 ② 登場人物を確認し、その中から中心人物を捉える。 ③ ゆうたとかずきの性格の違いを文章から読み取る。 ④ 3の場面のゆうたの行動に着目し、心情の変化を読み取る。 ⑤ 物語に続きがあればどんなことが起きるか考えて書く。
2学期 単元名 『モチモチの木』
<ul style="list-style-type: none"> ① 単元の見通しを持ち、感想を書く。 ② 登場人物を確認し、その中から中心人物を捉える。 ③ 文章全体の中から豆太の性格を読み取る。 ④ 豆太がじさまを呼ぶ時の台詞に着目し、場面ごとの気持ちの違いを読み取る。 ⑤ 豆太の心情の違いによって、モチモチの木の姿が違って見えることを読み取る。 ⑥ 最初の豆太と最後の豆太では変わったところがあるのかを考える。
3学期 単元名 『おにたのぼうし』
<ul style="list-style-type: none"> ① 単元の見通しを持ち、感想を書く。 ② 登場人物を確認し、その中から中心人物を捉える。 ③ 冒頭の文章を読み、おにたの性格を読み取る。 ④ まことくんの家と女の子の家を比較し、おにたの心情の違いを読み取る。 ⑤ おにたは、なぜぼうしを残して消えてしまったのかを考える。

4学年

1学期 単元名 『白いぼうし』
<ul style="list-style-type: none"> ① 登場人物は何人か、考える。 ② もしも、女の子がちょうだとしたら、ちょうだからできること、ちょうだからこんなことを言っているという叙述を見つける。(伏線を読む。) ③ もしも、女の子がちょうだとしたら、どのように車の中に入り、どうやって出たのか、叙述をもとに考える。 ④ ぼうしから逃げられたちょうが、なぜ松井さんの車に乗ってきたのか、松井さんの人柄がわかる伏線から考える。
2学期 単元名 『ごんぎつね』
<ul style="list-style-type: none"> ① 教師の範読を聞き、およその筋を捉える。 ② 登場人物を確認する。 ③ 語り手「わたし」を意識して、ごんと兵十の設定を読み取る。 ④ 結末場面を読む。冒頭にもどって、茂平じいさんがなぜこの話をしたのかを考える。 ⑤ ごんを撃った話を、兵十が最初に話した相手は誰かを考える。

5年生

1学期	単元名 『いつか、大切なところ』
<p>① 着語読み・登場人物の確認</p> <p>② 中心人物（亮太）の変容とあらすじをとらえる。 あらすじ：前の学校の友達と会い、一緒に過ごす中で、独りぼっちの寂しさを感じていた亮太が、自転車の女の子との会話で、これからの自分の新たな生活への新たな思いを見いだす。</p> <p>③ 心理描写を抜き出し、3つの場面を観点に分類する。</p> <p>④ 中心人物（亮太）の変容をとらえる。 （亮太の心が大きく変容したのはどこかについて話し合う。）</p> <p>⑤ 人物同士の関わりを人物関係図としてまとめる。</p> <p>⑥ 未来の人物関係図について話し合い、物語の続きを創作する。</p>	
2学期	単元名 『大造じいさんとがん』
<p>① 着語読み・登場人物の確認</p> <p>② 大造じいさんが行った作戦を数え、それぞれの作戦に名前を付けてあらすじをとらえる。 あらすじ：はじめは残雪の存在を忌々しく思っていた大造じいさんが空中と地上での残雪の姿に心を打たれ、残雪に対する見方が大きく変わった。</p> <p>③ 「大造じいさんが残雪に対する見方考え方を大きく変えたのはいつだろう。」について考え、中心人物の心情の変容をとらえる。</p> <p>④ 大造じいさんにとっての「卑怯なやり方」と「堂々と戦う」という2つの言葉を対比し、「なぜ、あれほどとらえたがっていた残雪を大造じいさんは逃がしたのだろうか」について考える。</p> <p>⑤ 大造じいさんの狩人としての生き方について自分の意見をもつ。</p>	
2学期	単元名 『雪わたり』
<p>① 着語読み・登場人物の確認</p> <p>② あらすじをとらえる。 あらすじ：きつねは人をだますと思っていた四郎とかん子が、きつねの幻灯会に招待されてきつねは人をだまさないと思えるようになった物語。</p> <p>③ 物語の疑問を根拠となる文章を基に考える。 ・幻灯会はなぜ11歳以下なのか。 ・2人がきつねの小学校を後にするとき、きつねが言った「今夜のご恩は決して忘れません」とはどういうことか。何がなぜご恩になるのか。 ・2人が森を出たとき、迎えに来た兄さん達が、「黒い影」に見えたのはなぜか。 ・兄さん達を「黒い影」とみた2人にとって幻灯会での出来事はどんな意味があったのか。 ・本文に出てくる色を表す表現にはどんな特徴があるのだろう。</p> <p>④ 人間対きつね・子ども対おとなについて作者はどのように描いているのかを考える。</p>	

6年生

1学期	単元名 『川とノリオ』
<p>① 単元の見通しを持ち、感想を書く。ポップの見本を見せる。</p> <p>② あらすじをつかむ ・登場人物 ・物語の最初と最後で変わったこと、変わらなかったこと ・物語を簡単にまとめると</p> <p>③ ノリオにとって川はどんな存在だったのかについて考える。</p> <p>④ 2歳の頃のノリオと小学2年生の頃のノリオでは、川の存在は同じかどうかについて考える。</p> <p>⑤ 物語の色の表現とその効果について考える。 ・色の対比</p> <p>⑥ 「川とノリオ」の主題について考える。 ・筆者がこの題名にしたわけを考え話し合う。「川とノリオ」はそれぞれ何に例えられているのか。</p> <p>⑦ ポップ作りをする。</p> <p>⑧ 並行読書をしてきたいぬいとみこ著書のポップ作りをして、紹介し合う。</p>	

2学期	単元名	『きつねの窓』
①	単元の見通しを持ち、感想を書く。	
②	登場人物を確認する。物語のスイッチを見つける。 ※スイッチ…現実と非現実が変わるところ	
③	あらすじを考える。 ・中心人物（ぼく）のなにがどのように変わったかを考え、あらすじをまとめる。	
④	指でつくった窓の中に見えるものについて考える。 ・指で作る窓の回数 ・非現実と現実で見えているもの	
⑤	主題について考える。 ・作品から自分が受け止めたことについて考える。	
3学期	単元名	『伊能忠敬』
①	単元の見通しを持ち、感想を書く。	
②	測定の回数を数え、それぞれどんな測量をしてきたかを確認し、あらすじをとらえる。	
③	伊能忠敬がどのような人物なのかについて話し合う。	
④	伊能忠敬の生き方で深く考えさせられたところについて、自分の考えをまとめる。	
⑤	興味のある人物の伝記を読み、その人物に対する自分の考えを書く。	

【説明文】

1年生

2学期	単元名	『だれが、たべたのでしょうか』
①	いくつの動物が出てきたのかを確認する。	
②	全文を比較し、文章の書き方で似ているところを考える。 3つの動物について、すべて問いと答えが書かれている。	
③	ねずみ、りす、むささびの食べ方をくわしく読む。	
④	他の動物の食べ方や食べあとについて調べ、説明文を書く。	
2学期	単元名	『はたらくじどう車』
①	いくつ自動車が出てきたのか、どこからどこまでが何の動物について書かれているかを確認する。	
②	全文を比較し、文章の書き方で似ているところを考える。 4つの自動車すべて、「しごと」ですから「つくり」「はたらき」の順で書かれている。	
③	それぞれの自動車を、くわしく読む。	
④	自分が興味をもった働く自動車の仕事、つくり、働きを調べ、絵と共に図鑑を書く	
3学期	単元名	『みぶりでつたえる』
①	「みぶり」という言葉がいくつ出てくるか、数える。	
②	見つけた「みぶり」という言葉は、すべて同じ意味か話し合う。→同じではない。	
③	教科書の挿絵と、本文を対応させながら詳しく読む。	
④	自分の身の回りでのどのような身振りを使っているか探し、説明する文章を書く。	

2年生

1学期	単元名	『すみれとあり』
①	説明文の構成を理解する。	
②	すみれの花が咲き、種をとばすまでの様子を、時間の流れを考えながらまとめる。 →順序を表す言葉を知る。	
③	ありがすみれの種を見つけてから、捨てるまでの様子を時間の流れを考えながらまとめる。	
④	すみれとありのつながりを読み取る。	
⑤	順序を表す言葉を集める。	
⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が紹介するものを決める。 ・自分が見つけた種の不思議を時間の流れを考えながらまとめる。 ・同じ植物の人と見せ合い、アドバイスをし合う。 ・つながりを見つけ、題名を付ける。 	

2学期	単元名『さげが大きくなるまで』
① 時を表す言葉を確認する。 ② 問題提起されていることとそれに対する答えを見つける。 ③ 段落ごとにどんなことが書かれているのか「説明文の家」にまとめる。 ④ さげが大きくなる様子を時と場所がわかるように表にまとめる。 ⑤ 写真を使ってさげの大きくなる様子を説明する。 ⑥ さげのすごいと思うところを紹介する。	

3年生

1学期	単元名『めだか』
① 単元の見通しを持ち、感想を書く。 ② めだかの絵本は何冊作れるかを考えながら読み、段落ごとのまとまりを考える。 ③ めだかの身の守り方についての中心文を読み取る。 ④ めだかの体の仕組みについての中心文を読み取る。 ⑤ めだかの学校の歌は段落に入れるのか入れないのかを考える。	
2学期	単元名『くらしと絵文字』
① 単元の見通しを持ち、感想を書く。 ② 本文がいくつのまとまりに分けられているのかを考えながら読む。 ③ 2の場面から絵文字の特徴がいくつあるのかを確認し、特徴をまとめる。 ④ 筆者が一番言いたかったことは何かを考える。 ⑤ 身の回りで見つけた絵文字を、教科書の書き方を参考にして、説明する文を書く。	
3学期	単元名『どちらが生たまごでしょう』
① 単元の見通しを持ち、感想を書く。 ② 本文がいくつのまとまりに分けられているのかを考えながら読む。 ③ ゆでたまごと生たまごの見分け方に着目して読み、違いを箇条書きにする。 ④ たまごの数を増やして実験したのはなぜかを考えて話し合う。 ⑤ リーフレットを作る。	

4年生

1学期	単元名『花を見つける手がかり』
① 教師の範読をもとに、内容に興味を持つ。 ② 題名について考え、本文中の「もんしろちょう」の言葉の数を考える。 ③ 一番大事な「もんしろちょう」の書かれている段落を考えることで、段落の役割をつかむ。 ④ 三つの実験の概要と結果を整理する。 ⑤ ⑮段落の必要性を考え、筆者の主張を読み取る。	
2学期	単元名『ウミガメの命をつなぐ』
① 問いと答えを見つける。 ② 説明文の家をつくる。 ③ 自分が興味をもったことを紹介する。 ④ 興味をもったことが書かれている文章を見つけ、短くまとめる。 ⑤ 興味をもったことを紹介する文章を書き、友達と交流する。	

5年生

1学期	単元名 『言葉と事実』
① 二つの新聞記事の違いを比べながら読む。 ② 本文を読み、表現する人による言葉のちがいについて考える。 ・新聞の見出しや記事を比べて読み、言葉の違いについて話し合う。 ・自分ならどのような言葉を用いて表現するか、考える。 ③ 本文を読み、言葉が与える印象の違いについて考えよう。 ・広告の見出しを比べて読み、言葉による印象の違いを話し合う。 ・自分ならどのような言葉を用いて表現するか、考える。 ④ 「言葉と事実」の筆者の主張についてまとめ、実例をもとに話し合う。 ・『たんぼぼ』『たんぼぼのちえ』を読み比べ、表現の違いから受ける印象の違いについて話し合う。 ・筆者の主張に対する自分の考えを書く。 ⑤ 自分の考えを意見文にまとめる。 ・新聞や広告などの素材をもとに、言葉のはたらきについての自分の考えをまとめる。 ⑥ 意見文を紹介し合い、感想を交流する。	
3学期	単元名 『まんがの方法』
① まんがはどのようにおもしろいのか、今の自分の考えをまとめる。 ② 本文の中に、「まんがの方法」がいくつ紹介されているか数える。 ③ どこからどこまでが、それぞれの方法の話か、確認する。 ④ それぞれの方法と、その効果についてまとめる。 ⑤ 筆者の表現方法の工夫を見つける。 ⑥ まんがに対する自分の考えを、読む前と比べて書く。	

6年生

1学期	単元名 『薫風』
① 単元の見通しを持ち、感想を書く。 ② 随筆の特徴についてまとめる。 出来事→感じ方・考え方 ③ 辞書における「薫風」と筆者の考える「薫風」の違いについて考える。 ④ 「迷い」を読んで、筆者が迷ったこと・迷わなかったことについてまとめる。 ⑤ 自分の経験をもとに随筆を書く。	
1学期	単元名 『森林のはたらきと健康』
① 単元の見通しを持ち、感想を書く。 ② 推薦文とはどのような文章かについて既習を振り返らせ確認する。 ・序論→本論→結論 ・根拠（経験・実験・事実） ・文末表現 問いかけ：～ありますか。～でしょうか。 誘い・進める：みなさんも～してみませんか。 事実：～とわかりました。～しました。 比喩表現：～のような ～みたいな ③ 単元から文章の構成を確認する。 ④ 感心したことや納得したことについて根拠を探して話し合う。 ⑤ 推薦文を書く。	
2学期	単元名 『ぼくの世界、君の世界』
① 単元の見通しを持ち、感想を書く。 ② 「うす暗い電球事件」で筆者が伝えたいことについて話し合う。 ③ 「あまみ」や「痛み」のなど「感覚は、全ての人に共通しているという保証はあるか」どうかについて話し合う。 ④ 「言葉のキャッチボール」の事例から「人と人は永遠に理解し合えないだろうか」について自分の考えをまとめ、話し合う。 ⑤ 「心の世界」について考えたことを話し合う。	